国際文化学科学生の履修動向と意識：CAP制導入後の学生を対象としたアンケート結果を中心に

Students' Registration Behaviours under CAP-System

永井　敦子
文化政策学部　国際文化学科
NAGAI Atsuko
Department of International Culture, Faculty of Cultural Policy and Management

高木　邦子
文化政策学部　国際文化学科
TAKAGI Kuniko
Department of International Culture, Faculty of Cultural Policy and Management

金武　秀道
事務局　教務・学生室
KIN Hidemichi
Educational and Student Affairs Section

本稿ではCAP制が、本学のとりわけ文化政策学部 国際文化学科の学生の履修状況に及ぼした変化について報告をおこなう。CAP制は本学では2015年度入学生から導入され、1学期あたりの履修登録単位数の上限が原則として22単位と定められた。CAP制の影響は、一つには2014年度までの入学生と2015年度以降の入学生の、単位取得状況および成績状況の比較から明らかになる。CAP制導入後の学生は履修単位数へのこだわりが強く、卒業要件を上回る単位取得が減少した。あわせて、本学科学生にCAP制に関するアンケート調査をおこなったので、その結果についても報告する。CAP制の意義が十分に理解されていないことが、現状では大きな課題である。

This paper reports the change of the students' tendencies to study and to accumulate credits under CAP-system. In our programs the CAP-system was started in 2015. Thereafter the students are normally allowed to register up to 22 credits each semester. Regarding the students of the Department of International Culture, a change is available between those who entered until 2014 and after 2015 when we compare how many credits they obtain. The students under CAP-system are more attentive to the number of credits required for the graduation, but they have less surpluses. In this paper are also included the students' opinions on CAP-system that we gathered by a questionnaire. The major problem of CAP-system may be that many students do not understand its reason.

1．はじめに

本学においては2015年度入学生から、新しいカリキュラムとともにCAP制度が導入された。その結果、本学文化政策学部国際文化学科学生（1学年定員100）の履修動向にどのような変化が生じたかを明らかにすることが、本報告の目的である。

本学文化政策学部では2017年2月のFD研修会「成績分布とeラーニング」において、科目別の成績分布データを共有した。本学科では学科学生の取得単位数と成績の分布データを共有することを考えた。学科長と学科教務委員（当時）の永井、学科FD委員の高木の合意のもと、まずCAP制導入前の最終学年である2014年度入学生の多くが卒業する18年3月時点での、在学生の取得単位数および成績（14年度までの入学生については素点平均、15年度以降の入学生については累計GPA）を取得した。これをもとに個人情報を削除した分布図（後出の表１、３、５、およびデータ１）を作り、18年9月の学科FD会議で共有した。またこのようなデータを継続して検討するという学科の合意を得て、さらに1年後、つまりCAP制導入後の最初の学年である15年度入学生の多くが卒業する19年3月時点で、ふたたび在学生の取得単位数および成績を取得した。

本報告ではまず、これらのデータを用いて履修動向の分析をおこなう。また、2018年9月の学科FD会議での指摘を受けて、19年1 ～ 2月に、16年度までに入学した在学生たち（当時の学年で3年以上）を対象とした履修意識に関するアンケート調査をおこなった。アンケートには本学で導入されているLMSのManabaを利用し、調査目的が学科の履修指導に役立てるためであること、回答者が特定されないよう統計的に処理することを伝えたうえで任意で回答を依頼した。この回答を教務・学生室のLMS担当の金武が集約して、学生ごとに取得単位数および成績、休学の有無と休学期間、協定校留学の有無と留学期間の情報を結びつけ、入学年を除く学籍番号・氏名などの個人情報を削除した上で分析した。この結果についても合わせて報告する。

2．CAP制導入前後での履修動向の変化

本学ではCAP制度が導入されて以来、この制度について学生に以下のように説明している。

「１単位は、教員が教室等で授業を行う時間に加え、学生が予習や復習など教室外において学習する時間の合計で、標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。CAP制度とは、予習復習の時間を確保する観点から、前期・後期の各期で履修登録できる上限単位数を定める制度です。本学においては、各期の上限単位数を22単位としています。なお、次の科目の単位数は上限に含まれません。」詳述は避けるが、資格自由科目と集中講義等の単位数が、上限には含まれない。「また、22単位を超えて履修登録を希望する学生は、「履修上限単位数超過履修登録希望願」にその理由を記入し、学科の了解及び所属学部長の許可を得られれば、22単位を超えて科目を登録することが可能です。」

以上が、全学生に配布される『履修の手引き』での説明である。『履修の手引き』は、教員が学生の履修相談に対応する際にも、必ず参照するよう指導するものである。

この制度のもとでの、学生たちの履修実績を明らかにするため、まずCAP制導入前の最終入学生となる14年度入学生で、18年3月に4年の在学を終える学生（休学歴のある学生を除く）99人と、CAP制導入後の言わば第1期生である15年度入学生で、19年3月に4年の在学を終える学生102人（同上）を比較する。14年度入学生の4年在学後の取得単位数の平均は133.87、彼らのカリキュラムでは卒業要件が124単位であるので、10単位近く上回る。15年度入学生の取得単位数の平均は133.08、卒業要件単位数は128単位であるので、約5単位しか上回らない。すなわち、CAP制導入後の学生は卒業単位をあまり大きく上回ることなく単位を取っていることになる。

さらに下の学年と比較するため、15年度入学生と16年度入学生の、それぞれ3年間の在学を終えた時点での取得単位数を見る（3年次終了時点より前に協定校留学[(1)]または休学を開始した入学生を除く）。15年度入学生105人の3年次終了時点での取得単位数の平均は123.23、16年度入学生88人は121.51である。ちなみに15年度入学生で3年の在学を終えた2018年3月時点で126単位以上を取得していたのは46人であった。126単位とは、4年ゼミの2単位を取得しなければ卒業できないことを見込んでの数字である。16年度入学生のうち在学3年で126単位以上を取得していたのは、36人であった。

さらに16年度入学生と17年度入学生の2年次終了時点での取得単位数まで比較すると（2年次終了時点より前に協定校留学または休学を開始した入学生を除く）、16年度入学生104人の平均は87.32、17年度入学生117人の平均は83.77と、単位取得が年々少なくなる傾向が見える。

表1：2018年3月に在学4年（またはそれ以上）を終えた学生の取得単位数と成績の分布（2014年度およびそれ以前に入学していて、当時在学中だった学生を含む）

取得単位数	成績（素点平均）					計
	～59.99	60～69.99	70～74.99	75～79.99	80～	
～123	6		1			7
124～127	4	4	1	4	3	16
128～131	1	5	4	3	9	22
132～135	1	6	5	10	3	25
136～139			2	8	13	23
140～	1	1	3	5	15	25
計	13	16	16	30	43	118

表2：2019年3月に在学4年を終えた2015年度入学生の取得単位数と成績の分布

取得単位数	成績（累計GPA）					計
	～0.99	1～1.99	2～2.49	2.5～2.99	3～	
～127		2		1		3
128～131		9	4	12	6	31
132～135		4	8	22	10	44
136～139			4	6	5	15
140～			2	6	1	9
計		15	18	47	22	102

表3：2018年3月に在学3年を終えた2015年度入学生の取得単位数と成績の分布（協定校留学者を除く）

取得単位数	成績（累計GPA）					計
	～0.99	1～1.99	2～2.49	2.5～2.99	3～	
～107		6				6
108～119		6	5	1		12
120～125		1	14	19	7	41
126～131		1	5	21	13	40
132～				5	1	6
計		14	24	46	21	105

表4：2019年3月に在学3年を終えた2016年度入学生の取得単位数と成績の分布（協定校留学者を除く）

取得単位数	成績（累計GPA）					計
	～0.99	1～1.99	2～2.49	2.5～2.99	3～	
～107	1	4	2			7
108～119		4	7	2		13
120～125		1	15	13	3	32
126～131			8	13	14	35
132～					1	1
計	1	9	32	28	18	88

表5：2018年3月に在学2年を終えた2016年度入学生の取得単位数と成績の分布（協定校留学者を除く）

取得単位数	成績（累計GPA）					計
	～0.99	1～1.99	2～2.49	2.5～2.99	3～	
～71		5	1			6
72～79			1			1
80～87		1	23	11	1	36
88～			7	28	26	61
計		6	32	39	27	104

表6：2019年3月に在学2年を終えた2017年度入学生の取得単位数と成績の分布（協定校留学者を除く）

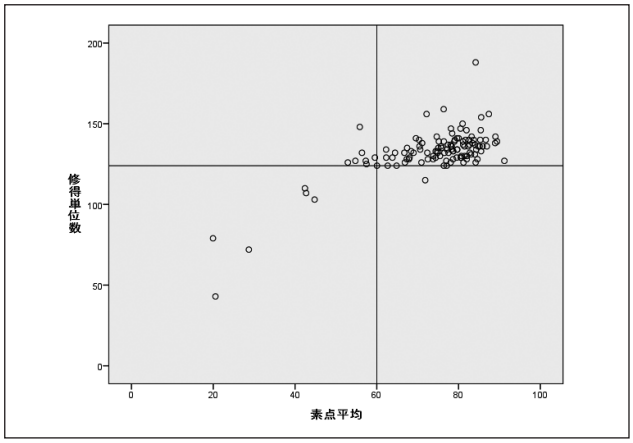
取得単位数	成績（累計GPA）					計
	～0.99	1～1.99	2～2.49	2.5～2.99	3～	
～71	1	5	2	5	4	17
72～79		5	4			9
80～87		1	11	16	5	33
88～			5	30	23	58
計	1	11	22	51	32	117

3．CAP制導入前後での成績状況の変化

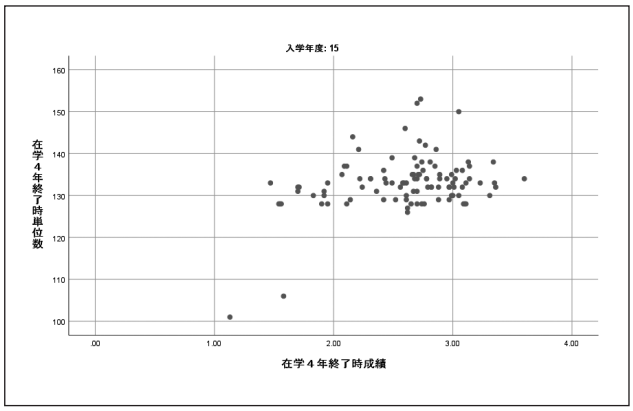
次に成績状況を比較したいが、14年度入学生と15年度以降の入学生の成績については、単純な比較ができない。CAP制導入とともに成績状況もGPAで測られるようになったのに対して、それ以前は「素点平均」を取っていたためである。それでも数値をあげると14年度入学生の卒業時の素点平均の平均は75.46（100点満点）、15年度入学生の卒業時の累計GPAの平均は2.60であった。

取得単位数と成績の相関では、14年度入学生も15年度入学生も、学年内で比較すると取得単位数の多い学生ほど成績（素点平均または累計GPA）が良く、それはCAP制度導入の前後で変化していない。

データ１：2018年3月に在学4年を終えた学生の、４年終了時の単位数と成績の相関（2013年以前の入学生を含む）：（n = 118，r = .724，p < .001）



データ2：2015年入学生で、2018年3月に在学4年を終えた学生の、4年終了時の単位数と成績の相関（n =103, r = .347，p < .001）



学年をまたいで比べると、15年度入学生と16年度入学生との間では、3年次終了時点での取得単位数では15年度入学生よりも16年度入学生の方が少なく、累計GPAも15年度入学生の2.58に対して16年度入学生の2.53と低下の傾向が見られる。ただし、16年度入学生と17年度入学生の2年次終了時点での比較では、取得単位数の平均では16年度入学生よりも17年度入学生が少ないのに対して、累計GPAでは16年度入学生の2.64に対して17年度入学が2.68と高くなっている。

CAP制導入には、学生が「3年で安易に124近くの単位を修得」することを防ぐ目的があったが[(2)]、CAP制導入以前の実態を見る限り、卒業要件単位数を上回っても学習意欲を維持する学生が少なくなかった。そうした学生の意欲に応えるために、CAP制をGPAと連動させて、学生各人の成績により履修制限に変化をつける方法には意味があるとも言える。しかし学年をまたいで見ると、CAP制度の導入から年数を重ねるにつれて、学生の取得単位数が減っても成績が下がり続けることにはならないかもしれない。

４．CAP制導入後の学生の履修意識調査

ここからはアンケート調査結果の分析になる。アンケートでは14年度入学生にCAPについての問いを含まない調査票を、15 ～ 16年度入学生にはCAPについての問いを含むものを提示した。回答があったのは14年度入学生の対象者13人中5人、15年度入学生119人中43人、16年度入学生110人中64人である。

表７：アンケート質問項目、ただし、（丸カッコ）内は原文のまま、［角カッコ］内は本報告のための補足。

問１［2015 ～ 16 年度入学生のみ対象］
CAP 制度に関する以下の質問にお答えください。

［以下①～③の回答方法は、「はい・どちらともいえない・いいえ」の３択］

① CAP 制度は、あなたの勉強のペースに合っていましたか？
② CAP 制度がなければ、あなたは１～２年時にもっとたくさん単位を取れたと思いますか？
③ CAP 制度がなければ、あなたは卒業までにもっとたくさん単位を取ると思いますか？
④ CAP 制度が設けられている理由を、あなたが理解している範囲で述べて下さい。分からない場合は「わからない」と記入して下さい。［④の回答は自由記述］

問２［2014 ～ 16 年度入学生対象］
３年次以上で履修時間割を作るときに、何を考慮しましたか？当てはまる回答を選択してください。

［以下①～⑧の回答方法は、「特に考慮した・多少は考慮した・どちらとも言えない・あまり考慮しなかった・全く考慮しなかった」の５択］

① ゼミ（卒業研究）
② 自分の興味がある科目の履修
③ 卒業要件を満たすために必要な単位の取得
④ 資格課程の実習や採用試験対策
⑤ 留学または留学準備など、自分の勉強
⑥ 就職活動やインターンシップ
⑦ サークルやボランティア活動
⑧ 自由な時間

問３［2014 ～ 16 年度入学生対象］
CAP 制度や履修について思うことがありましたら、自由に書いてください。［回答は自由記述］

５．CAP制に対する意識

まず問１で、学生たちのCAP制度に対する意識を探ったところ、①の問いかけに対して、CAP制度が自分の勉強のペースに合っていたと回答した学生が約4割、合っていなかったと明確に回答した学生が約2割であった。合っていなかったという学生の多くは、CAP制度がなければもっと多くの単位を取得できたはずだと考えている。すなわち②の問いかけに対して、１～2年次にもっと多くの単位を取得できたはずだと回答した学生には、①でCAP制度が合っていたと答えた学生の中でも6割が含まれるが、CAP制度が合っていたかどうか「どちらともいえない」と答えた学生の8割、「いいえ」と答えた学生のほとんど

が含まれる。その一方で、この回答結果と成績情報を重ねると、特に15年度入学生において、CAP制度が合っていなかった、もっと単位を取得できたはずだと考える学生たちが、そうではない学生たちよりも良い成績を収めているとは言えないことがわかった。

さらに、問１③で、３～４年次でも（「卒業までに」）もっと多くの単位を取得するかどうかを問うと、CAP制がなければ１～２年次にもっと多くの単位を取得できたはずだと回答した学生の間で、３～４年次にも取得すると回答した学生と取得しないと回答した学生に分かれた。この回答結果と成績情報を重ねると、きわめて成績状況の良い学生の一部が問１②で「はい」、③では「どちらともいえない」と回答していることがわかった。ここから、優秀な学生の中には早く卒業要件に近い単位数を取得して、そのあとは授業以外に力を入れることも視野に入れている者がいると言える。

データ３：アンケート問１①～③の結果概要（両学年合算）

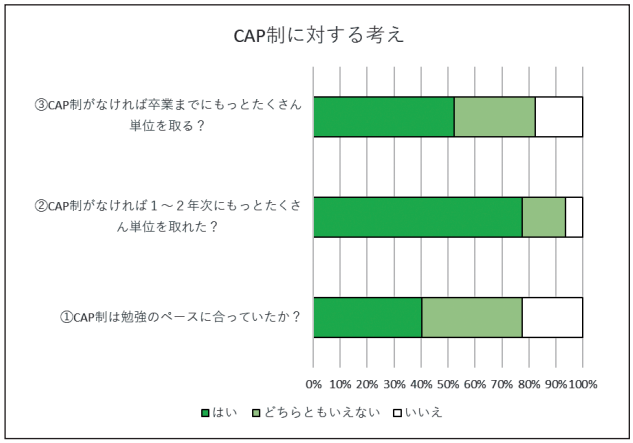


表８：アンケート問１①と②への回答状況のクロス（両学年合算）

			①への回答		
			はい	どちらともいえない	いいえ
			43	40	24
②への回答	はい	83	27	33	23
	どちらともいえない	17	12	5	
	いいえ	7	4	2	1

表９：アンケート問１①への回答と成績状況の相関（15年度入学生）

	3年次終了時点		4年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
はい	18人（うち休学歴あり3人）			
	124.44	2.81	132.93	2.86
どちらともいえない	17人（うち休学歴あり3人）			
	124.12	2.68	135.21	2.77
いいえ	8人（うち休学歴あり1人）			
	125.75	2.67	137.86	2.71

（16年度入学生）

	2年次終了時点（半期ずれ休学を除く[3]）		3年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
はい	25人（うち休学歴あり1人）			
	88.92	2.70	124.17	2.67
どちらともいえない	23人（うち休学歴あり3人、そのうち2人は半期ずれ休学）			
	85.95	2.60	122.65	2.54
いいえ	16人			
	83.5	2.66	124.5	2.64

表10：アンケート問１②への回答と成績状況の相関（15年度入学生）

	3年次終了時点		4年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
はい	33人（うち休学歴あり7人）			
	125.36	2.73	136	2.81
どちらともいえない	6人			
	124.17	2.87	131.5	2.86
いいえ	4人			
	118.5	2.56	131.75	2.61

（16年度入学生）

	2年次終了時点（半期ずれ休学を除く）		3年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
はい	50人（うち休学歴あり3人、そのうち1人は半期ずれ休学）			
	86.51	2.72	124.02	2.69
どちらともいえない	11人（うち休学歴あり1人、しかも半期ずれ休学）			
	87.7	2.42	123.5	2.41
いいえ	3人			
	82.67	2.29	120.33	2.27

表11：アンケート問１③への回答と成績状況の相関（15年度入学生）

	3年次終了時点		4年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
はい	23人（うち休学歴あり5人）			
	124.52	2.67	135.83	2.75
どちらともいえない	10人（うち休学歴あり1人）			
	125.3	2.93	135.56	3.01
いいえ	10人（うち休学歴あり1人）			
	123.9	2.68	131.89	2.66

（16年度入学生）

	2年次終了時点（半期ずれ休学を除く）		3年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
はい	33人（うち休学歴あり3人、そのうち2人は半期ずれ休学）			
	85.74	2.71	124.13	2.68
どちらともいえない	22人（うち休学歴あり1人）			
	86.77	2.66	122.71	2.62
いいえ	9人			
	88.56	2.47	124.89	2.45

表12：アンケート問１②で「はい」と回答した学生の、③への回答と成績状況の相関
（15年度入学生のうち33人）

	3年次終了時点		4年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
はい	20人（うち休学歴あり5人）			
	125.35	2.68	136.8	2.77
どちらともいえない	9人（うち休学歴あり1人）			
	125.11	2.95	135.38	3.03
いいえ	4人（うち休学歴あり1人）			
	126	2.51	133.67	2.38

（16年度入学生のうち50人）

	2年次終了時点（半期ずれ休学を除く）		3年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
はい	27人（うち休学歴あり2人、うち1人は半期ずれ休学）			
	85.62	2.73	124.76	2.70
どちらともいえない	18人（うち休学歴あり1人）			
	87.22	2.75	122.35	2.72
いいえ	5人			
	88.6	2.59	126	2.55

6．CAP制に対する理解

問１④でCAP制が設けられている理由を自由記述で問うたところ、自宅学習時間を含む学習時間の確保といった正しい理由のみを挙げた学生は3割に達せず、正しい理由と誤った理由を併記した学生を含めても5割に達しなかった。ここでいう「誤った理由」とは、漠然と「余裕を持って履修するため」や「3年次まで大学に来させるため」といったものを指す。しかも問１①の回答とクロスさせると、CAP制度に沿った学習のペースを受け入れているかどうかと、CAP制度について正しい理解をしているかどうかの相関は、見られないようである。また15年度入学生よりも16年度入学生の誤答の比率が高くなっている点については、履修指導をする側にもCAP制を十分に説明してこなかった責任があるかもしれない。

表13：問１①と④への回答状況のクロス

		④への回答					
		正しい理由のみ		正しい理由と誤った理由の両方を含む		誤った理由、または「わからない」など	
		両学年合計28		両学年合計15		両学年合計64	
①への回答		15年度入学生	16年度入学生	15年度入学生	16年度入学生	15年度入学生	16年度入学生
	はい　43	5	4	2	1	11	20
	どちらともいえない　40	7	4	1	5	9	14
	いいえ　24	4	4	2	4	2	8

表14：問１④の回答のバリエーション、ただし複数の学生が全く同じ回答をしたものもある
（正しい理由のみと認定される回答）

勉強に集中するため。
不明確な記憶で間違えていたら申し訳ございません。 ひとつの時期に履修できる上限が定められていることで、学生の、一つ一つの科目に関する学習の質を向上させることができると考えられ、その質の向上を目指すためであると思っていました。
1つ1つの教科により多くの時間をかけられるため。
1つの授業に対して予習復習の時間を90分ずつ確保しなければならないため、単純計算でそれ以上単位を取ろうとすると1つの授業に対しての学習が疎かになってしまうから。
1単位習得のために必要とされる勉強時間を確保し各教科のために十分勉強するため。
90分15かいの授業を復習とかの時間含めると22単位が限界っていうこと
CAP制度によって出来た授業以外の時間を、授業で行う、または行った内容に関する予復習に充てたり課外活動に生かすことで知識の定着や発展を促すため。
CAP制度内で取った教科について、予習復習などの勉強時間を確保するため。
それぞれの講義である程度の勉強量を確保するため
一つ一つの授業に対してしっかり学習する時間を確保するため
各授業の授業時間に沿った予習および復習時間を設けた結果、学生が充分に勉学に励むことができるだろうと考えた結果CAP制度を設けることにした。
学生が一つの科目にきちんと取り組めるようにするため
学生が前期あるいは後期の期間内に取得できる単位数に上限を設けることによって、各講義についての学習時間を確保できるようにするため。
限られた中で、学業に集中するため
時間割を調整することでそれぞれの科目をしっかり学び理解するようにするため
自習時間の確保のため。
自習時間を確保するため。
授業の予習・復習が充分に出来るようにするため
授業を取りすぎて1つの授業に対する勉強時間が減るから
授業外学習時間の確保
集中して一つの授業の勉強をするため
少ない科目で勉学に集中するため。
単位の上限を設けることで一つ一つの科目にかける勉強時間を多くし、より濃密な学習を確保する為。
文科省の定めた学習時間に沿うため。
本来単位を取得するには、大学で講義を受けるだけでは不十分であり、講義より深い知識や学びを得ることが本来の大学での学習なので、そのための時間を学生が確保できるようにするため。
予習復習のため
予習復習をきちんとして、90分×15回以外の学習時間を確保するため。
予習復習をきちんと行う時間が取れるように

（正しい理由と誤った理由の両方を含む回答、誤りと認定される部分をマークした）

1〜2年生のうちに卒業要件単位まで取ってしまい、3〜4年に学校に来なくなるのを防ぐため。たくさん授業を取ることで1つあたりの授業の勉強時間が短くなり、学問の質が落ちるから。
1.2年次に偏って単位を取り過ぎて、結果勉強の質が下がってしまうのではないかという懸念がある また、3.4年次になる前に単位を取り終えて授業すら取らなくなる、結果勉強もしなくなることを避けるため。
一つ一つの授業をより大切に集中して受講し、授業を沢山取り過ぎて単位を落とすことがないようにするため。
一学期に多すぎる授業を抱えると、学生がキャパオーバーしてしまうため 一つ辺りにかける勉強時間が短くなってしまうため
学期内に取得できる単位に上限がないと、一度にたくさんの授業を履修する学生もおり、そうすると、それぞれの授業の授業外学習などに手が回らなくなってしまい、結果的に単位が取得出来なくなってしまうという事態を防ぐため。
学校の授業以外に時間が回せるようにするため。
自分の限界以上にとってしまって、学ぶことが多くなり身につかない。
十分な授業外学習の時間確保と、生徒の休息時間の確保
制限を設けることで一つ一つの講義を徹底的に取得する事 (多くの単位を取って多くの単位を落とすことを防ぐため)
勉強の質を高める、継続的な学業を薦める
毎日の学習時間の確保、大学4年間の間できっちりと4年間分の学習をすることなど
無理のない範囲で学習を進めるため 予習復習に時間をかけてもらうため 早めに卒業単位を取り終わって大学に来なくなるのを防ぐため
無理のない範囲で適切な学習を促すため。
やみくもに多く授業をとって、単位を落としてしまう授業が出てしまうよりかは、単位を1つも落とすことがないようにするため。計画的かつ確実に勉強時間を確保する為。

（誤った回答または「わからない」など）

・学業とその他の学校生活とのバランスをとるため
1〜2年次にたくさん単位を取ってしまえば3〜4年次に授業を一切取らなくても卒業できてしまうようなことを避けるため。
1、2年で卒業単位に足りる単位を取り終えるのを防ぐため
1、2年で多く取りすぎて、3年以降で怠けないため
1、2年生のうちに必要単位を全て取って、3、4年生にもう学校に来ない学生が過去たくさんいたからと先輩から聞きました。
1. 2年のうちに単位を取り終えて3年で勉強をしずにバイト三昧や遊びすぎる人がいないようにするため。
1. 2年次にたくさん単位をとり、3.4年次にあまり授業をとらない学生がいるため。
3、4年の時に遊び呆けないように
3. 4年になっても、大学に通うことを促すため 1. 2年のうちにとる講義を減らすことで自宅学習時間やアルバイトの時間を確保するため
3. 4年次の授業受講数を少なくしないため。
4年間の持続的な学習
CAP制度がないと、1、2年生のうちに卒業に必要な単位を取り終えてしまい、3、4年生で大学生の本分である学業が疎かになる可能性があるため。
ダメ元で履修してしまう授業が増える
バランスよく学習するため。
バランスよく授業を取ってほしいため
むやみやたらに単位をとりすぎないようにするため。
わからない
わかりません。
一、二年次で過剰な量の講義を受講することで提出課題等への取り組みが滞り、結果として多くの学生が単位を落としてしまうため、これを避けるために設けられたと考えている。
一年、二年で単位を取らずに遊んで、三年、四年で無理して授業を詰め込む人がいるから。
学校に来る頻度が偏らないため
学生に負担なく授業を受けれるために1学期に単位の取得数に制限をかける制度である。
継続的な勉強をするため
計画的に授業を受けさせるため
講義の学習時間以外の自由な時間を確保するため。
三年生の最後までしっかりと勉強して自分の知識を増やし就活で生かせるようにするため。
四年になってもしっかり授業を取るように。
四年間の時間をかけて学び続けるため
四年間同じような授業量で継続して学習できるようにするため
自分が取れない分の単位もとりあえず履修登録してしまって講義に来ない学生が出るから。
自分の限界を超えて講義をとり、潰れないように?
取るだけ単位を取って学校に来なくなる人がいるから
受ける授業数の偏りを防ぐため
授業を必要以上に履修しすぎたため、単位を取ることができなくなることを防ぐため。
上限22単位 資格課程は含まれない。 心身の健康のため
上限22単位を各学期に選択することが出来る。
制限がなければ最初の2年間でほとんどの単位を取ってしまうことにが可能であり、残り2年はただ授業料を納めるだけになる。ただ授業料を納めるだけでは授業料がもったいなく、制限を設けることで大学4年間で均等に学ぶようにするため。
大学3年まで学校に通わせるため
単位を落とさない程度に授業を履修するため。
入学当初はなんとなくこういうためのものかと理解していたが、今改めて聞かれると忘れてしまっている
分からない
毎年一定量授業を受けるようにするため

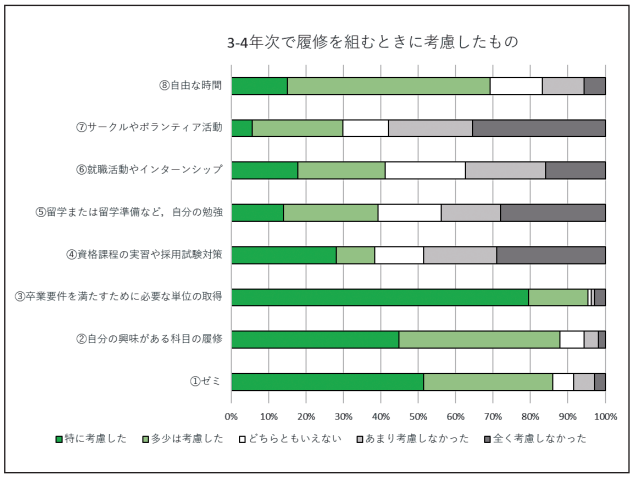
7．学生生活に関する意識

アンケートの問２では、3年次以上で履修時間割を組むときに考慮したものについて、優先順位なしで各項目に5段階評価をつけてもらった。最も多くの学生が「特に考慮した」と答えたのは、まず「卒業要件を満たすために必要な単位の取得」、次いで「ゼミ（卒業研究）」、「自分の興味がある科目の履修」となる。ただし「特に考慮した」と「多少は考慮した」を合わせると「自分の興味がある科目」と

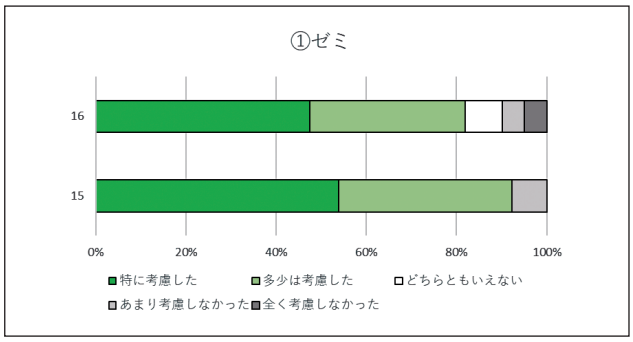
「ゼミ」の順位が逆転し、また４位に「自由な時間」が入ってくる。これらの項目に対して、「資格」「留学」「就活」「サークル」といった項目では、考慮したという学生と、考慮しなかったという学生のばらつきが大きかった。

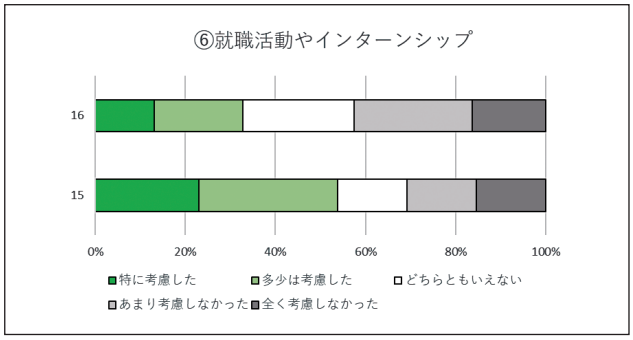
学年別に見ると、「ゼミ」と「就活」に対する関心は4年次のほうが3年次よりも高いが、「卒業要件」に対する関心は3年次のほうが高かった。この回答結果と単位取得状況を重ねると、卒業要件を「全く考慮しなかった」「あまり考慮しなかった」「どちらともいえない」学生には、卒業要件を上回って単位を取得している学生と4年での卒業をほぼ諦めた学生という、両極端の学生が含まれた。

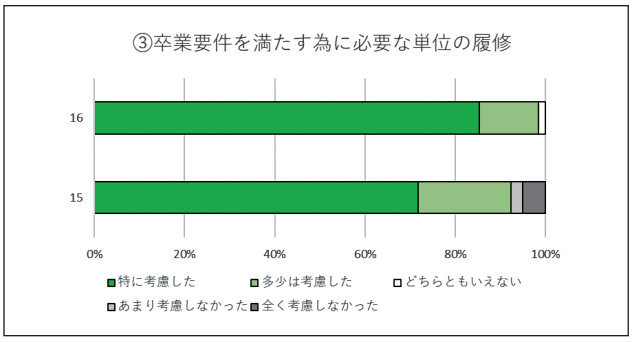
データ４：アンケート問２①～⑧の結果概要（全学年合算）



データ５：アンケート問２の入学年別の回答状況







８．学生生活に関する意識と成績状況

問２の回答結果と単位取得状況・成績状況のデータを重ねると、多くの項目で「考慮した」学生と「考慮しなかった」学生の間に成績状況等の差がほとんど出なかった。まずアンケートに回答した学生の単位取得状況・成績状況の平均が、学年全体の平均よりも高い。「ゼミ」「自分の興味がある科目の履修」や「卒業に必要な単位の取得」を「考慮した」学生が大多数だったので、これらの項目では差がつきにくい。「就活・インターン」や「サークル」「自由な時間」については回答にばらつきがあったが、これらへの関心の度合いは大学での成績と異なる傾向にあるようだ。

そのなかで「資格課程」に関しては、「考慮した」学生の単位取得状況・成績状況が「考慮しなかった」学生よりも良い傾向にあった。アンケートではどの資格かを問うていないが、本学科では、中学・高校の教職課程（国語または英語）を履修することができるほか、学部に日本語教師養成課程と司書課程が用意されている。学生の現状から、資格課程に登録した学生が必ずしも優秀とは言えないので、資格課程の中で３～４年次で資格取得に注力できる学生とそうではない学生の間に、何らかの選別が働いた可能性がある。

表15：問２②「自分の興味がある科目の履修」を考慮したかどうかの回答グループ別の成績状況（15年度入学生）

	3年次終了時点		4年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
特に考慮した	22人（うち休学歴あり5人）			
	124.27	2.71	135.12	2.78
多少は考慮した	16人（うち休学歴あり1人）			
	125.5	2.75	135.6	2.78
どちらともいえない	3人（うち休学歴あり1人）			
	123.67	2.84	131	3.12
あまり考慮しなかった	1人			
	122	3.33	130	3.31
全く考慮しなかった	1人			
	121	2.17	129	2.14

（16年度入学生）

	2年次終了時点（半期ずれ休学を除く）		3年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
特に考慮した	26人（うち休学歴あり2人、うち1人は半期ずれ休学）			
	85.64	2.58	122.96	2.53
多少は考慮した	30人（うち休学歴あり1人）			
	87.6	2.77	124.14	2.75
どちらともいえない	4人（うち休学歴あり1人、しかも半期ずれ休学）			
	80.67	2.33	123.33	2.39
あまり考慮しなかった	3人			
	89	2.57	126.67	2.52
全く考慮しなかった	1人			
	86	2.29	124	2.19

表17：問2④「資格課程の実習や採用試験対策」を考慮したかどうかの回答グループ別の成績状況

（15年度入学生）

	3年次終了時点		4年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
特に考慮した	12人			
	126.33	2.89	134.42	2.91
多少は考慮した	4人（うち休学歴あり1人）			
	124.25	2.84	134.67	2.92
どちらともいえない	6人（うち休学歴あり3人）			
	125.67	2.60	138	2.77
あまり考慮しなかった	9人（うち休学歴あり2人）			
	124.33	2.73	134.51	2.84
全く考慮しなかった	12人（うち休学歴あり1人）			
	122.5	2.62	134.45	2.61

（16年度入学生）

	2年次終了時点（半期ずれ休学を除く）		4年次終了時点（休学歴ありを除く）	
	取得単位数平均	累計GPA平均	取得単位数平均	累計GPA平均
特に考慮した	18人（うち休学歴あり2人、うち1人は半期ずれ休学）			
	88.41	2.84	127	2.79
多少は考慮した	7人			
	90.14	2.72	124.43	2.68
どちらともいえない	8人（うち休学歴あり1人、しかも半期ずれ休学）			
	85.29	2.62	124	2.63
あまり考慮しなかった	12人			
	87.75	2.57	124.33	2.54
全く考慮しなかった	19人（うち休学歴あり1人）			
	83.16	2.53	118.56	2.50

9．CAP上限緩和の扱い

本学の『履修の手引き』にあるように、「22単位を超えて履修登録を希望する学生」には、「希望届」の提出が求められている。「希望届」には直近のGPAを記入する欄があり、「原則としてGPA3.0以上」と注意書きがされているが、理由を記入する欄のほうが大きいため、学生は理由説明に注力して、GPAが3.0未満でも提出してくることがあった。

「希望届」の理由説明は、履修意欲がある、資格課程を履修している、協定校留学を目指している（または協定校留学を終えた）といった傾向に分類できる。協定校留学をする学生は、平均して成績状況が良い傾向にある。資格課程に本気で取り組んでいる学生の成績状況が良いことは、前節で指摘したとおりである。だが、資格課程を履修している学生を見る限り、単に「履修しているから」という理由で、成績の原則をゆるく適用するよりも、成績が優秀な学生にアドバンテージを与える適用の方が良く、協定校留学をする学生についても、同じことが言えるだろう。

CAP上限緩和を適用されるにふさわしい学生とは、関心のある科目を多数履修し、しかも優秀な成績を収める学生であろう。これまでの調査では、そうした学生の傾向がまだつかめていない。その限りでは、CAP上限緩和をGPAと連動させる適用が最も合理的であるように思われる[(4)]。

表18：15年度入学生のうちで、協定校留学経験者とそうでない学生の単位取得状況・成績状況の比較

	協定校留学	度数	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差
在学4年終了時単位数	あり	7	135.29	9.23	3.49
	なし	96	132.84	6.31	.64
在学4年終了時累計GPA	あり	7	2.84	.26	.10
	なし	96	2.58	.49	.10

10．CAP制度の功罪

CAP制は学生たちに、まず履修制限として意識された。導入当初は特に、新入生の履修相談を受ける教員にも戸惑いがあり、それは先輩学生の間にもあっただろう。14年度入学生がアンケートの問３の自由記述に書いた、「私は旧カリキュラムなので、関係なかったのですが、新カリキュラムの制度（半期ごとにとれる単位数に限りがあること）は履修を考える上で学生にとって弊害があると思います」という意識は、教員にもあったはずだ。

その後、CAP制のもとで4年間を過ごした学生が「結局、CAP制で合っていた」と言う声も聞いた。しかし今回のアンケートでは、CAP制を履修「制限」と捉える傾向は相変わらず強い。またCAP制導入の最大の効果は、学生に履修単位数への強いこだわりを植え付けたことかもしれない[(5)]。

今回のアンケートに回答した学生は、そもそも大学生活への適応度が高かったと言えるだろう。そうした学生たちの間ですら、CAP制度の意義が十分に理解されておらず、反発を買っているという点が、現在CAP制度が抱えている問題だと言えよう。意義が理解されないまま、CAP制度が履修の単なるペースメーカーになっていく可能性も十分にある。その一方で、2017年度入学生から単位取得のペースと成績の関係に新しい傾向が見られるとすると、CAP制度を前提とした履修が、教員と学生の間に定着しつつあるのかもしれない。しかし取得単位数と成績の正の相関が弱くなり、良くも悪くも平準化しているようにも見える。

いずれにせよ、もし今後もCAP制を維持していくならば、学生に意義を丁寧に説明するとともに、言わば原点である

単位の実質化を進めないわけにはいかない。それは結局、私たち教員にかかってくる。

表19：問３の自由記述のバリエーション（複数の学生が全く同じ回答をしたものもある。「ない」「特になし」は除いた。）

現在就職活動を行なっており、インターンシップに参加する上で何度か授業の欠席をしなければならないことが多いですが、教員の方の反応があまり良くないです。もちろん学業が本分であることは理解していますが、こちらとしても就職する企業とのミスマッチを防ぐために行っているインターンシップなのにと感じました。 それに加えまして、CAP制度において予習復習の時間が必要であることは理解している予定ですが、長期留学の幅を広げるためにも、低学年の頃から多くの授業を取ることができれば、大変魅力的であると感じました。せっかく交換留学という素晴らしいシステムがあるのですから、1．2年で多く単位を取り、3．4年の間でゆっくり長期留学や、現地で卒業論文執筆、ネットワークを通して添削などもあって良いと思います。他大学と比べ、そういった意味では履修関係を心配して、留学に踏み込めない子がいてはそれは大変かと思います。学部生時代の留学はまたとない貴重な経験となると思いますので、教務の方からはぜひその生徒の留学活動を後押しして頂けるような取り組みをぜひ考えていただきたいと思います。 先ほどの就職活動の件に加えさせていただきますが、キャリア支援室において原則的にインターンシップは公式な欠席として認められないことには納得がいきません。遊んでいたりですとか、怠けているなら別だとして、なぜ就職活動をする上で重要であるはずのインターンシップに参加することで、成績を下げるようなことになってしまうのか理解に苦しみます。きちんとその点についても、説明していただければ幸いです。
私は現在4年生で、私たちの入学年度からCAP制度が導入され、正直なところ、全体的に手探りな状態で進んでいったと感じます。しかし、私はCAP制度が存在し、授業数の上限の決まっていたことは、自分自身の勉強ペースに合っていたと思います。 また、私は司書課程を履修していたのですが、CAP制度がある方が資格に必要な科目とそれ以外の卒業要件単位科目とのバランスがとりやすいのではないかと感じました。
・資格科目でも卒業単位に含まれるものが増えてほしい。 ・分野ごとの最低取得単位の基準を下げてほしい。 資格科目で多量の単位を取っているのに、卒業単位も別で集めるため、本当に興味のある分野の授業がなかなか取れないため。
1．2年生で授業がもっと取れれば、三年生になって課題やインターンにもっと参加できると思う。
1年の時間があるときに取りたい科目が取れなかった。3年時になってからはインターンのために時間を開けておくべきなのに授業が多くあり、どうしてもためらいがちになってしまう。 他大学の学生が公務員講座やら就職活動に時間を費やしているのにも関わらず、大学がその時間を奪うという矛盾が生まれてしまっている。 個人的には資格課程をとっているので実質22単位以上履修しているので上限が全く意味をなしていない。
1年生は慣れてないから取りすぎるときついと思うので、2,3年あたりのCAP制度はなくして自由に取らせてほしい。そうしたら4年で余裕ができて就活と卒論に集中できると思う。
2年後期から留学をしたのですが、履修制限が妨げとなって留学から帰ってきた時に精神的にも体力的にもかなりきつい時間割を組むことになりました。 留学を推奨するならば、CAP制度は邪魔になるなあと感じました。
CAP制度が1・2年生の時になければもっと単位が取れていただろうと思います。
CAP制度があっても、4年時まで興味のある講義は履修していたので、単位数にはあまり関係なかった気がするけれど、1,2年の時に空きコマが多すぎて暇だった。
CAP制度がなかったら、1,2年時に授業をたくさん履修したと思うが、上限があることで、勉強にも余裕を持って取り組み、満足できる結果を残すことが出来たため、結果的にはCAP制度があって良かったと思う。
CAP制度がなければもう少し授業を取れたと思う。 CAP制度のせいで1年次にとりたい授業が受けることができなかった。 前学期の成績によって取れる単位を増やすべきだと感じた
CAP制度が無ければ、もう少し就活の準備や自学習に時間を費やせるのでは無いかと思うことが多い。
CAP制度については特に不満をもったことはありません。しかし、学科科目については、卒業のために必要な単位取得数を満たすことが少し大変だと感じたことはあります。興味のない分野でも、やむを得ずとらなくてはならないことがあったからです。
CAP制度の上限を超えて履修を認める制度で、明らかに勉学で忙しくなり、その制度が必要な友人が通らなかったと聞き、さすがにおかしいのではないかと感じました。勉学が理由ならば、もう少し配慮があってもよいのではと考えました。 また、この制度があったため、取りたい授業も上限の関係で取れないなどがありました。
CAP制度は緩和したほうがいいと思います。
CAP制度を無くして欲しい。 ゼミ選択が始まる前に様々な授業を受けて、その上でゼミを選択したいから。
CAP制度自体には賛成ですが、履修超過の許可が厳しいと感じます。
もう少し効率的に単位を取りたかったが、結果として学外の活動が充実したので、悪くはないのかもしれない
もう少し単位の上限が緩くなるといい
好きな勉強があまりできなくなるのがCAP制度だと思う。また留学する人に不利。
私は、CAP制度がなければ、早めに卒業に必要な単位数を確保することを優先し、学習という点がおろそかになってしまっていたと思います。一定期間の取得単位数を制限されることは、勉強を第一に考えるべき学生にとっては良いことだと思います。
私は旧カリキュラムなので、関係なかったのですが、新カリキュラムの制度(半期ごとにとれる単位数に限りがあること)は履修を考える上で学生にとって弊害があると思います。私は休学をし、1年間留学をしたので4年間講義を受ける時間がありましたが、それでも留学・就活のことを考えて、1,2年の頃は多めに講義をとっていました。それをしていなければ就活時期は特に、学校と就活の両立をすることは難しかったと思います。取れる単位数に限りをつけず、学生に計画的に講義をとるように任せてもいいのではないでしょうか。
邪魔
上限をもう少し増やすべきと考える。
正直CAP制度の無い方が良かった
正直言うとCAP制があることによって、3年次でも結構多く授業を受けなければいけないのでインターンシップと被ったりして授業に出席できないことが多い。CAP制がなければもっと就職活動に集中できるし留学なども考える学生が増えると思う。
他学科科目の取得単位数上限を6単位から増やしてほしい
大学は自分の学びたいことや経験したいことを自由にできる場所、時間なのに、CAP制度に縛り付けられてまったくできなかった。必要な単位を取って卒業しなきゃとばかり考えていた。

大学生に4年間の学習が求められる理由もわかります。しかし、今現在は就活の変化によりインターンシップから競争が激しくなっています。インターンシップは直接採用に繋がらないという言葉があるように、大学側も授業の欠席を公欠にしてくれません。1．2年生まで1つも単位を落とさず、まじめに頑張ってきたので、就活も手を抜かずに頑張りたい思っています。しかし、3年生になりCAP制度によりほぼ毎日学校があり、インターンシップで何度も休む日が多かったです。 インターンシップと伝えても休めない授業もあり、インターンシップを諦めたこともありました。 教職を取っている人のように、成績などの何か条件をつけてもいいので、多く単位を取っても良い制度があれば良いと思いました。 就活が始まった3年生になって、CAP制度の見直しが必要だと感じています。 ぜひ後輩たちが、授業によって悩まされない就活をしてほしいです。 就活を早く始めようというキャリア支援室からの講座があるのに、インターンシップなどの就活で授業を休めないのは矛盾してると思っています。 現3年生は、この問題で悩まされている人が多いと思います。
単位のある資格科目を取っているとそのせいで取りたい科目が取れないことがあった。また、取りたいものを取れる時に取れるのが理想だったためなくしてほしい。
単位上限があっても落とすときは落とすしまあ何とも言えない 留学したい人とかはかわいそうだった
導入しない方が良かったと思います。
日本語教員も他の資格と同じように2年から超過履修できるようにしてほしい。資格も取りつつ、留学し4年で卒業することがもう少し普通になれば資格を取るために留学を諦める人が少なくなるのでは。
日本語教員養成課程の履修者だと1、2年で取れる授業が限られてしまうな、と思いました。
勉強の質を高めるためによかったと思う しかし、もう少し上限が上であれば、 授業のバランスをもう少し取りやすかったのではないかと考える。
留学などの長期期間学校を離れる活動に参加すらことに、消極的になると感じた
留学に行く学生に対しての超過履修の許可はもう少し出て良いと思う。確かに3年間で十分卒業要件は満たすが、留学先で単位が取れない、単位認定されない、何か事故でもあったら、と思うことがあったので超過の許可を下りやすくしてほしい。
留学や資格取得する人のために、あらかじめ1．2年の時に単位を取れるよう制度を緩めるか無くした方がいいと思う
留学や資格取得等、目的や理由がきちんとある学生には、CAP制度を緩める配慮があっても良いかと思います。もちろん、CAP制度が設けられている効果もあるとは思いますが。
留学をしたのですが、留学を考えてる人には辛い制度でした。

註

(1)「協定校留学者」とは、本学が交流協定を結んでいる海外の大学に留学する学生を指す。留学期間は、留学先と学生の留学計画によって異なるが、早ければ2年次後期から開始できる。これらの学生は留学中も休学しないが、留学先で取得した単位については、帰国後に認定手続きを取らなければ卒業単位に加算されないため、在学していても他の学生と単位取得のペースが異なる者がいる。したがって成績状況の平均値を算出する時に母数から除いた。

(2) 中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(平成24年8月28日)の「用語集」よりCAP制の説明。
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf

(3)「半期ずれ休学」とは、後期から休学期間を開始した学生を指す。「休学歴あり」「半期ずれ休学」の学生は、回答者グループの人数(上段)には含めているが、成績状況の平均値を算出するときに母数から除いた。

(4) 大学基準協会による「基礎要件にかかる評価の指針(平成31年3月改定)」において、学士課程の履修登録単位数の上限設定に関して、「成績優秀者に対して」あるいは「学内の規定に基づき」、「履修登録単位数の上限を緩和又は適用外としている場合」については、「制度の運用実態に十分な注意を払う必要がある」と指摘されている。本報告をきっかけに、本学においても実態の把握や議論が進むことが望ましい。
https://www.juaa.or.jp/common/docs/accreditation/e_standard/university/shishin_02.pdf

(5) CAP制導入後の学生の、卒業単位に対する強いこだわりは他大学でも見られるようである。片瀬一男「CAP制は学生の履修行動をどのように変えたか　－CAP制導入の「意図せざる結果」」、『東北学院大学教育研究所報告集』17、2017年、17-40頁。